



DoKoネット

—同志社大学工学部同窓会報—
第9号(2007)



What's New!

2007 年度工学部同窓会総会

2007 年 4 月 29 日(日) 京田辺キャンパス(夢告館)

11:00～ 工学部同窓会総会および懇親会(2,000 円)

14:00～ ゼミ同窓会(ご企画ください)

2007 年度第 20 回工学部同窓会リユニオン

2007 年 11 月 4 日(日) 今出川キャンパス

第1部 10:00～ 同志社大学ホームカミングデー2007

第2部 16:00～ 5N卒業年グループリユニオン

－卒業年グループリユニオンの世話役を同窓会事務局までご推薦下さい－

2007 年度のリユニオン第2部は各卒業年グループごとにお集まり願いますが、

特に5N周年(S27、32、37、42、47、52、57、62、H4、9、14年卒業)の

方々には特別に企画いただく予定となっております。

詳細は下記ホームページでお知らせします。

ホームページアドレス

<http://dokonet.doshisha.ac.jp/>

このページは工学部同窓会情報のお知らせと共に工学部同窓会リユニオンの企画や卒業生の方々の掲示板としてご利用いただきます。

次号同窓会報”DoKoネット”第10号は2008年3月に発行いたします。

皆様の寄稿をお待ちいたしております。

[http:// dokonet.doshisha.ac.jp/](http://dokonet.doshisha.ac.jp/)

工学部同窓会会長 岡 正 太 郎

一昨年の会報第7号に私はいま同窓会にとって一番大切なものは「同窓生が母校に対して強い関心を寄せてくれることだ」と書きました。物事に対して「関心」があつてこそ、それに「協力する」とか「援助する」という行動が誘起されるものだと私は思うのです。従つて、同窓生の母校に対する関心が少しでも高まりつつあるということは同窓会の将来を考えると大変喜ばしいことであり、また、もっと関心が高まるように情報交換に努力しなければなりません。

このように「会員と母校との間の架け橋」の役割はこの表題に掲げた同窓会ホームページが担うと思ひまして、今年は「ホームページの充実」を優先課題として取り上げています。同窓生諸賢は“誰でも、何時でも、何処からでも、自由に”このホームページにアクセスできますので、もう皆さんは、何回もご覧いただいていると思います。もし未だ試みてない方がありましたら、是非この機会にお手許のパソコンに

[http:// dokonet.doshisha.ac.jp/](http://dokonet.doshisha.ac.jp/)

のアドレスを入力してみてください。美しい写真入ホームページを簡単に呼び出せます。トップ・ページが出ましたら、後は画面の案内に従つて母校の近況をご覧ください。

「会員と母校との情報交換の架け橋」を一段と充実し、会員諸賢の「関心」をさらに、高めるため同窓会では今、専門委員会を編成して「ホームページ高度化」の作業を推進しています。すなはち、特別の IT 技術を駆使してホームページを高度化し、会員に対する情報交換の新しい架け橋を構築している最中です。実は、これが大仕事なのですが、首尾よく完成しますと、会員と母校間だけではなく、会員相互間の連絡システムも実現し、いろいろな単位で（たとえば、ゼミの懇親会・学年単位のクラス会・趣味やスポーツの集会など）のコミュニティー形成ができ、その効果を実感していただけたと思います。このような事業や催しを契機にして、同窓生の母校に対する関心は最近少しずつ高まりつつあると実感しています。さらに平成19年3月には同窓会名簿の改訂版がCD版として完成される予定です。徹底した個人情報保護機能を織り込んだCD型の名簿が出来上がります。

もう一つ今年度の大きいニュースとして同志社大学のホームページ

http://www.doshisha.ac.jp/information/activity/new_faculty.php

には、2008年度に「生命医科学部」「スポーツ健康科学部」の2学部の新設が報じられております。これらの新学部は工学部の広範な工学研究の実績を基盤に、医学、基礎生物学、倫理学など多様な学問の融合的な教育と研究が行われ、良心に満ちた医生命科学者、バイオメディカルエンジニアの育成を目指しているようです。

近い将来、会員と母校の間に「素晴らしい架け橋」が完成し、輝かし発展が実現するのを期待して同窓の会員諸賢と共にじつと成功を見守りたいと思います。

元 島津製作所 専務 (1952年 機械学科卒)

学科紹介

インテリジェント情報工学科・情報システムデザイン工学科

知識工学科は2006年度入学生から学科名称が「インテリジェント情報工学科」に変わりました。インテリジェント情報工学科(知識工学科)には現在、1年生124名、2年生96名、3年生105名、4年生104名の合計429名の学生が在籍しています。また、2004年度に設立された情報システムデザイン学科には、1年生113名、2年生87名、3年生160名の合計360名の学生が在籍しています。一方、知識工学専攻の博士課程(前期)には114名が、博士課程(後期)には12名の学生が在籍して研究に励んでいます。情報システムデザイン学科では文系入試も実施しているとともに、入学後は人と関わる情報システムを開発するのに必要な社会科学系の科目も学びます。そのため、「人工知能や認知系に興味があるのでインテリジェント情報工学科を受験した。社会科学系の講義科目があるので情報システムデザイン学科を受験した」という声を多くの入学生から聞きます。就職活動については求人が多く、明るい状況です。教員の動きとしては、2006年度に情報システムデザイン学科にATR国際電気通信基礎技術研究所より下原勝憲教授を、NTTコミュニケーション科学基礎研究所より片桐滋教授を、東京電機大学より鈴木智也専任講師をお迎えしました。各研究室は以下の通りです。<インテリジェント情報工学科> 情報数理工学(渡辺陽一郎教授・程俊助教授)、知覚・認知機構(力丸裕教授・佐々木康成専任講師)、情報システム学(金田重郎教授・芳賀博英助教授)、知識情報処理(河岡司教授・渡部広一教授)、知的機構(柳田益造教授・坂東敏博助教授)、知的システムデザイン(三木光範教授・廣安知之助教授)、数理モデル(岡崎龍太郎助教授)、<情報システムデザイン工学科> 社会情報学(下原勝憲教授・Ivan TANEV 専任講師)、知能メカトロ情報システム(橋本雅文教授・高橋和彦助教授)、共創情報学(片桐滋教授・大崎美徳専任講師)、応用メディア情報(大久保雅史教授・土屋隆生教授)、ネットワーク情報システム(佐藤健哉助教授・小坂隆浩専任講師)、音声言語処理機構(山本誠一教授・鈴木智也専任講師)。2008年度、京田辺キャンパスに生命医科学部とスポーツ健康科学部の設置が決まりました。同時に工学部も再編されます。情報系2学科も将来を見据えた改組に真剣に取り組んでいきたいと考えていますので、卒業生の皆様には今後とも更なるご支援をいただければ幸いです。

教務主任 橋本雅文

電気工学科・電子工学科

電気工学科と電子工学科は電気系学科として卒業研究では、卒業生の皆さんが大学生活をなさったときと同様に合同で指導しております。時代の波は、新しい名前の学科を要請し、我が工学部の他学科も新しい特色を示す学科名に改組されましたが、電気教室では学科の改革を議論いたしました。現在の工業技術の根幹の部分になうのは「電気工学」と「電子工学」であるとの認識にこだわり、教育内容で時代に対応したものになることを努めております。2006年4月の入学は電気工学科93名、電子工学科118名、大学院博士課程(前期課程)97名、(後期課程)2名で、2007年3月卒業は電気工学科109名、電子工学科133名、大学院博士課程(前期課程)63名でした。2008年度から工学部再編として理工学部と名称を変更し、新学科として入学定員40名の数理システム学科が設置される予定です。それに伴い、電気工学科、電子工学科はそれぞれ入学定員(教員数)75名(10名)、85名(10名)となる予定です。電気回路研究室の井上馨先生が4月8日から1年間の予定で米国University of California, Berkeleyで在外研究へ出かけられます。2006年10月から電気機器研究室に岡山大学から教授として藤原耕二先生をお迎えしております。実験実習センターの森山英隆実験講師と金春峰先生(電気機器)専任講師が3月をもって退職されます。就職関係で2006年度の就職委員渡邊芳英先生から以下のコメントをいただきました。「一般的に言って、非常に好調でした。また学部でも成績位層の内定率は非常に高かったと思います。それに加えて、成績下位層であっても、体育会で元気がある学生やコミュニケーション能力が高い学生は、順調に第一希望の内定がとれたように思います。学生の希望が多かったのは人気の自動車です。その関連会社も根強い人気で、特に中部地方出身者の間で希望者が多くいました。ただ、

学科紹介

関連会社でも、選考もそれなりに厳しく、全員が希望通りとは行きませんでした。大手電機メーカーも大人気です。合格者は院生に限られました。ある電気系会社は、推薦者全員内定という喜ばしい結果でした。関西指向のせいもあり、関東のメーカーはやや人気が無かったようです。就職活動に際し、OBの方から様々な支援を受けました。ある会社では、そのときの応募状況についての情報を知らせて頂き、絶対大丈夫だからと励まして頂くことさえあり、応募学生が感激していました。私もさすが同志社と思いました。」 教務主任 吉門進三

機械システム工学科・エネルギー機械工学科

機械系学科では、現在1,058名の学生が在籍しています。その内訳は、機械システム工学科の1年生132名、2年生115名、3年生135名、4年生184名の合計566名で、エネルギー機械工学科の1年生110名、2年生120名、3年生82名、4年生180名の合計492名です。一方、大学院修士課程には1年生91名、2年生95名の合計186名が在籍しており、大学院博士課程には18名が在籍しています。機械系学科では、2000年度に開始した両学科共通のカリキュラムにより数学・物理関係の基礎科目と機械系の材力・熱力・制御・機力の5つの応用科目群を徹底的に教育しており、4年生では大学院科目を一部履修できる新しい制度を設けました。さらに2003年度からは大学院においてAdvanced English科目を開講して専門英語教育の充実を図っております。研究室体制は、2003年度より材料・加工分野4研究室、熱・流体分野4研究室、機械要素・生産・機力・制御分野4研究室、基礎教育分野(数学・物理)2研究室の14研究室体制とし、新たな研究室体制を構築いたしました。2004年度、京都大学木質化学研究所より則元京教授と大阪大学より北川浩客員教授を、2005年度、京都大学より田中和人助教授と龍谷大学より平山朋子専任講師を、さらに本年度神戸製鋼より田中達也教授と島根大学より積際徹助手を迎えて、各研究室は以下のとおりです。構造力学研究室(藤井透教授・大窪和也助教授)、金属材料科学研究室(御牧拓郎教授・宮本博之助教授)、応用材料工学研究室(今井田豊教授・田中達也教授)、成形加工研究室(片山傳生教授・田中和人助教授)、木質科学研究室(則元京教授)、マイクロメカニクス研究室(北川浩客員教授)、伝熱工学研究室(千田衛教授・稲岡恭二助教授)、噴霧・燃焼工学研究室(藤本元教授・千田二郎教授)、流体力学研究室(平田勝哉教授・舟木治郎助教授)、流体工学研究室(水島二郎教授・山口博司教授)、生産システムデザイン工学研究室(青山栄一教授・廣垣俊樹助教授)、機械力学研究室(小泉孝之教授・辻内伸好教授)、制御工学研究室(横川隆一教授・積際徹助手・柴田浩客員教授)、機械要素・トライボロジー研究室(松岡敬教授・平山朋子専任講師)、物理学研究室(高岡正憲助教授)、数理工学研究室(押目頼昌教授)。なお、2005年度より、浦部治一郎教授は新設された文化情報学部に移られ、ご活躍中です。 教務主任 小泉孝之

機能分子工学科・物質化学工学科

化学系では11月末時点で1,012名の学部生と153名の博士課程前期課程院生ならびに7名の博士課程後期課程の学生が在籍しています。内訳は、機能分子工学科では、1年生131名、2年生120名、3年生以上卒業未配属を含め129名と卒業配属生124名を合わせて510名、物質化学工学科では、1年生109名、2年生116名、3年生以上卒業未配属を含め146名と卒業配属生131名を合わせて502名となっています。また、工業化学専攻では今年修士1年生として70名が加わりました。就職は昨年度から引き続き比較的よい気配です。このように、出口は好転の兆しを見せつつあるものの、入口は、昨今の工学部離れの影響は如何ともしがたく、また、入学生が新課程の教育を受けてきていることから、どのようにして学生を集めるか、さらに、どのように学生を育てるかに腐心しているところではございますが、学部教育では、時代の要請であります教員のFD活動を積極的にを行い、工業化学専攻では、修士の中間発表のシステムを取り入れて、学生の更なる能力開発に力を注いでおりますので、入口と出口共々、卒業生の皆様のご支援を切にお願い申し上げます。

4月から塩井章久先生を物質化学工学科に迎えました。この結果、物質化学工学科は昨年同様7研究室体制、

学科紹介

分子化学工学（塩井章久助教授）、粉体工学（日高重助教授、白川善幸助教授、下坂厚子実験講師）、移動現象（森康維教授、土屋活美教授）、計測分離工学（中島理一郎教授、塚越一彦教授、田村隆実験講師）、生物化学工学（近藤和生教授、松本道明教授）、材料システム（高野頌教授、伊藤正行教授）、数理解析（堀内龍太郎教授）で動いております。機能分子工学科は、物理化学（上野正勝教授、伊吹和泰教授（在外研究で渡仏中）、土橋倫昭実験講師）、電気化学（田坂明政教授、稲葉稔教授、竹村英明実験講師）、機能有機化学（加納航治教授、小寺政人教授）、高分子化学（東信行教授、古賀智之専任講師、松本孝広実験講師）、無機合成化学（廣田健教授、加藤将樹助教授）、有機合成化学（伊藤嘉彦客員教授、太田哲男教授）、有機化学（山下正和教授、大西慶一郎実験講師）、数理解析（溝畑潔助教授）です。来年度からは、助教授は準教授、これまでの助手は助教と呼び方が変わる予定です。2007年3月には、土橋倫昭実験講師が退職されます。長年、工学部での教育のみならず研究にもご尽力いただきましたことに、心より厚く御礼申し上げます。 教務主任 太田哲男

環境システム学科

環境システム学科は、自然科学分野の横断的な知識を応用して、環境と人間が関る複雑なシステムを分析し、問題点を抽出整理してその解決を図る能力をもった人材の養成することを目的として、2004年4月1日に創設されました。環境問題は人間の地球上での生存を如何に持続可能とするかという点に集約されます。そのためには地球とその上に生き続けてきた生命の歴史を知るという巨視的な視点と、最終的な目標である人間への環境影響を分子レベルで知るという微視的な視点を合わせ持つ必要があります。また、人間の環境に及ぼす効果が人間にフィードバックされる仕組みも重要なテーマです。これらを踏まえ、環境システム学科では、地球環境分野と生命環境分野を教育・研究分野を二つの柱として活動するように計画され、これが他の多くの環境系の学科に比較された場合の大きな特徴となっております。

2005年5月からは活動拠点を新築の「恵喜館」に移しました。2006年には予定の全教員が着任しました。2007年4月には創立時に入学した1期生が4回生となり、卒業論文に取り掛かります。そして、2008年3月には学科完成となります。これと時を同じくして、京田辺キャンパスには医生命科学部とスポーツ健康科学部の2学部ができる予定です。新学部の設置に伴い、環境システム学科で“医”に関係していた部門は医生命科学部に順次移行してゆき、何人かの教員も新学部に異動する予定です。この意味では、環境システム学科は学科の立ち上げと変革が連続する激動の時代を経験しております。この変化に対応すると同時に、これを契機として2つの柱の一つ、人間環境分野は“医”の視点を新しい視点に移して領域を設け、brand new 環境システムとして再デビュー予定です。激変を乗り越え、同志社大学の医・環境分野としては学部を超えて充実拡大するものと期待しています。 教務主任 谷川 徹

数理環境科学専攻

数理環境科学専攻も、発足以来9年目に入りました。いよいよ次年度は、待ちに待った環境システム学科の完成年度を迎えます。進学体制も、従来の工学部他系列からの推薦を主にしたものは今年度が最後となり、次年度からは、環境システム学科出身者が主軸へと、大きく様変わりする予定です。学生の進学体制こそ変わりますが、地球の未来を決する、これからの最重要サイエンスたる環境科学そのものの教育方針にいささかのぶれ等有り得べくもありません。それを受けて、本専攻の存在は社会的にも次第に認知されつつあり、結果として修士生の就職も極めて順調です。これは、偏に最近しばしばリクルータとして訪問して頂ける卒業生の皆様のお陰と、心から感謝している次第です。現在は54名が在籍しており、修士1年が30名、修士2年が24名です。教員は数理モデル分野が林隆夫教授、押目頼昌教授、大宮眞弓教授の3名、地球環境分野が林田明教授、伊藤靖彦教授の2名、人間環境分野が井上望教授、谷川徹教授、山下正和教授の3名です。発足当時から

学科紹介

ら人間環境分野で中心的に御活躍頂いた松田正文教授は、今年3月で御定年になられました。発足当初からの御苦労に心からの感謝の意を表したいと思います。替わって次年度からは地球環境分野に環境システム学科の増田富士雄教授が加わり、増々強力な布陣となります。ところで、マスコミの報道等でご存じの方も多いと思いますが、2008年度に本学に生命医科学部とスポーツ健康学部新設されます。特に前者には、本専攻の専任者の何名かの方々の工学部からの移籍が決まっており、大学院の体制は不確定要素も多々ありますが、本専攻も大きな影響を受ける事は必至です。しかし、この変革をネガティブに考えることなく、本専攻の新たな発展の契機にしたいと思っています。特に、発足以来の悲願でもあります、博士後期課程設置に向かって最大限の努力を傾注したいと思っています。本専攻の院生は、進学意欲が極めて高いのですが、残念なことに本専攻に後期課程が設定されていない為、しばしば不利益を被って参りました。数多の困難がありますが、何とか解決の糸口を見出したいと思っておりますので、卒業生の方々の御支援を賜りたいと存じます。

専攻教務主任 大宮 眞弓

キャリアセンター（元就職部）ニュース

2004年4月京田辺キャンパスに、工学部生を対象とした工学部就職関連資料室（理化学館1階）に加えまして、キャリア・就職支援体制拡充を目的としてキャリア支援係（京田辺校地キャリアセンター：ローム記念館3階コラボレーションルーム）が設置され、各系列就職委員の先生方と協力してまいりました。これにより、就職関連情報の提供、窓口相談に加え、就職関連セミナー・ガイダンスの充実が図られております。一方、京田辺キャンパスに通学する低年次生（1・2年生）に対しても、社会に出て「働く」という意味を認識し、在学中に学んだ知識、抱いた関心の延長線上に将来プランを設計しえるような様々なキャリア形成支援プログラムを実施しています。また、本年は2005年4月に京田辺キャンパスに設置されました文化情報学部にて在籍する学生が、就職活動を始める時期となります。2007年2月27日から3月9日まで9日間に分かれて、総計403社の企業セミナーが13:10-17:30（京田辺キャンパス知真館1号館、3号館）工学部・工学研究科対象キャリア形成講座「企業研究」として開催されました。多数の卒業生を中心に各企業の方が約50の小教室を利用して企業説明会をされ、在学生は感心のある企業の説明を聞き、企業の方との面談を行いました。

2007年度工学部就職委員

	担当者	就職委員室	連絡先
情報系学科	やまもと せいいち 山本 誠一	有徳館東館 YM-223	Tel:0774-65-6249, Fax:0774-65-6809 Email:js-kou1@mail.doshisha.ac.jp
電気系学科	いしはら よしゆき 石原 好之	有徳館西館 YE-513	Tel:0774-65-6246, Fax:0774-65-6806 Email:js-kou2@mail.doshisha.ac.jp
機械系学科	ひらた かつや 平田 勝哉	有徳館東館 YM-103	Tel:0774-65-6247, Fax:0774-65-6807 Email:js-kou3@mail.doshisha.ac.jp
化学系学科	みずたに ただし 水谷 義	至心館 SC-207	Tel:0774-65-6248, Fax:0774-65-6808 Email:js-kou4@mail.doshisha.ac.jp
数理環境科学	いとう やすひこ 伊藤 靖彦	有徳館西館 YE-219	Tel:0774-65-6250, Fax:0774-65-6250 Email:js-kou5@mail.doshisha.ac.jp

ひとことエッセー

最終目標と目先の目標

2000年知識工学専攻博士前期課程修了 馬場 秀樹

私は同志社大学院を修了して7年目となりますが、これまでの間に IT エンジニア、IT 講師、エンジニアサポート、管理職と、修了以来同じ会社の中で様々な仕事を経験してきました。元々エンジニアが業績の中心にいる会社だけに、現在においては主業務の傍らで今までの自分の経験をもとに、採用活動にも乗り出す機会が多くなっています。

ここ数年における学生の就職の傾向として感じることは、『全体的に就職意欲が低く、受動的で、すぐに会社をやめてしまう人が後を立たない』というものです。

面接を行っていても、自分がどうなりたいかを答えられる人は少なく、社会人になろうという意欲もそれほどではないことを考えるとニートが増えているという世情もそれに繋がっているのでしょう。また自分から動かずに常に指示を待つ、つまり自分で判断ができない人の割合も高くなっています。そういう点において、採用活動はどの会社も以前より難しくなっているのではないのでしょうか。

一方で入社後に伸びる人の大半は自分の目標が明確に定められており、それに向けて自分がやるべきことも見えています。特に、その目標が人生の最終目標に近くて内容も具体的になっている人・・・例えば年商 20 億円のコンサルタント企業を作りたい、フィジーに 500 坪の庭付きの家を建てたい等・・・は、目先の目標が達成しても、最終目標に到達するまではすぐに次の目標が出てくるために空白期間というものがなく、その結果成長も早くなるのでしょうか。

そういった目標達成のためのキャリアアップという観点で退職・転職することはむしろ必要なことといえますが、昨今の退職理由はそういう前向きなものではなく、『現状から逃げたい』『1年で今の仕事を諦めた』『実家に帰りたい』といった後ろ向きな理由がどの企業でも増えてきていると思われる。どれも目標が存在しないから起こりうる理由ではないかと感じられ、目標が明確になっていればめったに発生しないケースではないかと思えます。

その人達の生い立ちまで分析するときりがありませんが、少なくとも就職前に最後にいる場所は大学や専門学校です。その学校において学生の皆さんが人生の目標を見つけられるかどうかは重要な意味を持つと考えています。人生においてもっとも制約がなく自由な動きや経験ができるのは学生、特に大学や専門学校であり、その間に経験したことはその後の人生に多くの影響を与えることになるのでしょうか。

その点を考えたとき、サークルや一般教養、さまざまな分野の学生が集まっているといった特徴がある総合大学は、目標を見出すという観点において非常に有望ではないのでしょうか。

私が同志社大学学生時代において、『学生中に起業のアイデアを定め、企業で末端から役員までのキャリアを短期に経験した上でその経験をもとに起業独立した上で最後は大型ヨットを手に入れたい』という自分の目標を見出し、それが今になってもブレずにいられるのは、同志社大学・大学院における生活で、研究・部活動・アルバイト・さまざまな人との交流/レジャーといった多種多様な経験をして来たからだと感じています。

ぜひ、今後もそういう機会を与える大学であり続け、後輩の皆さんを輩出して頂きたいと思えます。

株式会社 VSN IT 事業部 事業部長

ひとことエッセー

七夕会の歩み

32年電気学科卒 奥村八郎

確か卒業した年の春、結婚第1号が名乗り出た。親しい者が集まり祝う会を開いた。それから毎年のように結婚する者が続いた。その都度京都、大阪にと友が集まった。卒業後10年程でいつも集まっている者の中に独身が居なくなった。今迄集まってきた「集い」をここで途切れるのは残念だと、少なからず皆の思いの中にあつた。今後は同窓会として集まろうとの空気が流れた。京都、大阪と交代で開催し、毎年、年1度会うことから[七夕会]と名付けた。その上開催日も7月7日に近い土曜日とした。その時は卒業後15年程経過していた様だ。京都担当の年には、数人の電気学科の恩師の参加もあり在学中の話に花が咲いたり萎んだり。

大阪担当の年は一泊しようと幹事は下見にあっちこっちと走り回った。しかし3回程続けたが参加者が10名を割り出して来た。

「一人でも多くの参加を」と続けてきたが、逆の結果に向かったので一泊は断念した。又或る年は「朝からゴルフをし、そしてパーティ会場へ」とのプランも交通渋滞でパーティ開催時刻に遅れ、待っている友に迷惑をかけたこともあり、それ以来ゴルフも取り止めた。七夕会の案内も当初は50名程に出していたが音信不通、天に旅立たれた友があり、今は35名位となった。今年は卒業50周年、毎年ホテルで開催している七夕会を、今年は京都で、舞子、芸子、鼓や三味線と艶のある処で宴を開くと京都担当は意気込んでいる様子。ふとした事から京田辺校地に50周年記念の植樹をする事となり、賛同者は28名となった。片山副学長、松岡工学部長、岡工学部同窓会長のご参列をいただき、平成19年3月6日に植樹した木は、ハンカチの木。5~6年で白い花が咲くと聞く。初めての花が咲く年に、京田辺校地で28名が元気で再会できる事を七夕会の目標の一つとしたい。



写真：植樹式と植樹式後の七夕会メンバー

ひとことエッセー

企業人から大学教員になって

1983年機械第二工学科卒、1985年修士課程修了 田中 達也

DoKo ネットに寄稿させて頂くのは今回で2度目である。2000年に「OB会あれこれ」というページに、同窓生の立場から神鋼同志社OB会の紹介記事を書かせてもらった。そして、今回は大学教員としてこの記事を書いている。実は、1985年に同志社大学大学院工学研究科博士前期課程（修士）を卒業後、21年間勤務した神戸製鋼所を、本年3月に退職、4月より同志社大学工学部機械システム工学科に勤務している。産学連携が謳われて久しいが、我が身をもって実践している次第である。入社式（同志社でも大学教職員になる時には入社とよぶ）の際、再び今出川キャンパスに立って、27年前の風景とほとんど変わっていない中で入学時を思い出し、この歳になっても尚、同志社大学と関わることになったことへの感慨に耽りながら本学との縁の深さをつくづく感じている。

ところで、勤務地はご存じのように立派な校舎が建ち並ぶ京田辺キャンパスである。毎日、JR同志社前駅から約15分坂道を登る。21年間運動不足気味であった者にとって春先はかなりしんどかったが、夏を過ぎ今ではかなり慣れ、自分の部屋に着く時間も計算出来るようになった。同じ様に、秋学期後半（最近の大学では、春学期・秋学期とよぶ）になってようやく授業の要領もつかめてきたように思う。企業人と違い大学人は自由人だと入社当初よく言われた。そのため、自由人は時間が自由に使えるのだと思込んでいたが、実は逆で講義のある時間（曜日）は必ず拘束されるのである。私のような新人にとっては講義時間の90分も長い、その前後の授業の準備に拘束される時間も結構なものである。その間、学科内の所用や学外への講演（産学連携や高大連携）など、さらに時間が拘束され、一週間があつという間に過ぎる感がある。一方、当然ながら研究に関しては、会社のように上司の干渉を受けることもなく、信念をもって進めることが可能である。この点は十分自由人と言えるであろう。

工学部同窓会については、初代幹事もさせて頂いた。発足当初でもあり、当時の幹事会では学外の人間として無責任に先生方へ結構無理なお願いをしたように思う。そして、今度は大学教員として同窓会を発展させる立場になった。同窓会も関係各位のご努力で、発足当初と比べると、かなりの組織になったように感じる。そのような中で、学外・学内の両方の立場を知る教少ない者として、より一層の工学部同窓会の発展に微力ながら尽力したいと思っている。

同志社大学工学部

真理はあなた方を自由にする

1965年工業化学科卒、1967年修士課程修了 檜山圭一郎

「Veritas Liberabit Vos(真理はあなた方を自由にする)」は、新島襄先生の愛唱聖句で、今出川キャンパス中心に立つ明德館の塔の下に書かれていることから同志社で学んだ人は、誰でも知っている言葉です。しかし残念ながら、正確に理解している人は少ないのではないのでしょうか。世の一般人は、真理とは科学的真理であると理解していると思いますし、もう少し深く考えても真理とは漠然と神の摂理を指すとぐらいに思っているのではないのでしょうか。この聖句の意味を考えながら、いま一度かつて同志社にハリス理科学校があり、そして現在も同志社大学に工学部があることの意味を考えてみたいと思います。

そもそも人は何故先人の得た知識を学習し、そして自ら学問を究め、そして次の世代に伝えていく

ひとことエッセー

のでしょうか？古代より現在に到るまで人類は、病、飢餓、そして誰にも訪れる死など、生きていく上で多くの不安を抱えており、そのため人知を超えてそれらを支配する大きな方のことやさらにその方の意思を知ろうとして、宗教、占星術を発達させてきたと言えます。それが学問、研究へと繋がって現在に到っているのです。それ故、学問・研究の基本は、自分が興味あることを対象とするのではなく、絶対なる普遍なる方（神）の意思を知ることであります。しかしながら、神の意思を知るとしても、自分が神に取って代わって自分の意思が神の意思であるかのようになってしまうのが、素の人間です。すなわちこれが原罪なのです。この人類が本来に有している罪を悔い改め、真に神の意思（真理）を知るには、仲介していただく方を通してしか成し得ないのです。すなわち、仲介者であるキリストの真理を知ることが不可欠であると言えます。このキリストの真理が私達を罪の中から救い出し、自由にしてくれるのです。

新天地を求めて18世紀にイギリスからアメリカへ渡って来た清教徒達が建国のため最初に行ったのが、次世代の子供達への教育のために、聖職者を育てる学校を創ることでした。これが世界最高学府のハーバード大学になったわけですが、同大学の校章にVeritas（ラテン語）の単語と聖書が描かれていることは、まさに同大学がキリストの真理を礎にして教育を行っていることを表しています。一方、「人を植えるのは100年の計」と、同志社を創立して若者がキリストの真理に出会い、それを基に若者が自らキリストの真理を体得する手立てとなる教育をすることに全身全霊を捧げられた新島先生のご遺志が、今も同志社大学の教育の基本に生きていることと確信します。年々新たに同志社大学に入学する学生達はその新島先生のご遺志を十分に受け継ぐ者となる事を願っております。

欧米における自然科学の発達は、キリスト教の影響で、色々な自然現象を構成する要素の解析によってもたらされたと言われていています。西洋の科学的手法を取り入れた我が国の自然科学の研究でも、要素の解析が主眼に置かれていま す。しかしながら、その要素の解析を何のために行っているかということがしばしば忘れられてしまう嫌いがあります。もともと人間の身近な自然現象を理解するために要素研究を行っていることが忘れられ、要素を研究することが最終の目的となってしまっていることがしばしば見られます（理学的研究にしばしば見られます）。これでは、自己満足のための研究を行っているとしか言えなくなります。本来の研究目的である複雑な自然現象を捉えるには総合的な学問情報の集積による全体の理解が必要であります（工学的研究はそのようなものでしょう）。研究者といえども、いま自分には何が出来るのか？何を研究すべきなのか？これらを神に問い、そして神の啓示に従い、それに従うこと。これが本当に真理探究の姿勢であるといえるでしょう。同志社大学でこれから学ぶ、またかつて学んだ人が同志社でしか得られない「キリストの真理」に出会う恵みに応えて、世のために働く人となること、新島先生の100年の計に応えることになるでしょう。そのための学生教育（私は、教育とは教え育てることではなく、育つことを教えること（即ち育てていただく大いなる方、神、の存在を教えること）と信じています）、にお役に立てればと願っております。

(有)バイオシステム研究所代表、工学部嘱託講師

働く意味

2005年度 数理環境科学修了宮川 昌也

会社に就職して瞬間に1年半が経ちました。就職活動から入社にかけて「なぜ働くのか」とよく疑問に思いましたが、実際に社会人の仲間入りをして自分なりの「働く意味」が見えてきたと思います。当初は働かないと生活できないからと考えていたが、実は「自己実現」の為ではないかと思うよ

ひとことエッセー

うになりました。私の理想的な自己は経済に何らかの影響を与える社会人であり続けたいです。

最近、父も同様の思いを持ち仕事に取り組んでいたのではないかと思います。私の父は中小企業の出版社1本で40年間働きました。そんな普通のサラリーマンの父が幼かった時の私に仕事の話をした事を覚えています。居間に呼ばれ、しゅしゅ行くと1冊の本を見せ「これが今度企画した本で、来月出版されるぞ」と自慢気に話してきました。その本は厚みも太く、内容も難しそうでも売れそうには思えませんでした。しかし、小さいながらも父なりに社会へ自分の仕事の成果が発信され、それに対する達成感を持っていたと思います。

そんな父に育てられた私も昨年、恩師に多大な迷惑をかけ大学院を卒業し、システム開発会社(SI会社)に就職しました。会社では証券業務の開発に携わる事となり、証券業務とシステムを勉強する日々が続いています。証券業務のシステムを簡単に説明するとお客様が証券会社で売買できる商品を注文してから実際に取引されるまでの一連の業務をシステム上で実現します。一見、簡易的にシステム構築できそうですが、顧客別に注文の仕方が違い、また商品毎に取引の形態も違います。その為、開発を実施していく上で業務面とシステム面の両方の知識が問われます。お客様から見るとシステムは正常に稼動しているのが当たり前で、もし正常に稼動しなければ大変な事態になります。どんな仕事でもそうですが実際にプロジェクト参加して、報われる事よりも苦勞する事が多大にあります。私の仕事内容を考えてみると小さいながら社会に貢献でき、システムが無事稼動しているのを見て達成感も得られます。自分が仕事のそういう所に喜びを感じていると発見した時、父の仕事観と同じ物もっている事に気づきました。そのように考えるとシステム開発の仕事を選んだのも自然と業種は違いますが父の影響があったからだと思います。

これから先は漠然としている仕事観を明確に見据え、少しずつ社会全体に自分の存在価値を示して行きたいと思っています。

御願ひ

同窓会の運営を活性化する今年度の目的を是非ご理解いただき、2007年4月1日からの工学部同窓会2007年度年会費2,000円のご送金を下記の方式でお願いいたします。2,000円以上のご送金は寄附とさせていただきますので、御協力をいただければ幸いです。

工学部同窓会2007年度年会費2,000円納入方法

1. 郵便振替 00990-0-151193 : 同志社大学工学部同窓会
2. 銀行振込 南都銀行京田辺支店(店番740) 普通預金口座 218806
口座名 同志社大学工学部同窓会 代表者 岡 正太郎

同窓会活動・リユニオン

2006 年度工学部同窓会幹事会記録

- 2006 年 3 月 22 日 11 時から卒業式に先立ち紫苑館 2 階教職員ラウンジにて新任の同窓会委員懇談会を開催した。
- 2006 年度から新しく 2007 年 3 月に卒業予定の工学部在学諸君より同窓会入会前受金として年会費 5 年相当額の大学による代理徴収が開始されました。同窓会活動の活性化を図る検討が進められ、本年から初めての試みとして、総会とリユニオンを分離した。即ち、全体の会合を年間に 2 回、年度始まったところ（5 月大型連休の前半部分）の総会と秋の大学行事であるホームカミングデーに合わせた工学部同窓会リユニオン開催である。この案内は全員に送付されている。
- 2006 年 4 月 30 日の総会開催に先立ち 2006 年度学内外幹事会を開催し、総会の議題に審議を行った。
- 2006 年 11 月 5 日工学部リユニオン開催に先立ち 2006 年度学内外幹事会を開催し、総会の議題に審議を行った。

2006 年度工学部同窓会総会の報告

リユニオンと総会が分離した最初の総会は 2006 年 4 月 30 日京田辺キャンパス紫苑館食堂で開催され松岡 敬（工学部長・教授）「最近の工学部の活動について」のご挨拶をいただきその後以下の議事を審議。

（1）2005 年度事業報告、2005 年度会計報告、2006 年度事業計画、2006 年度予算案を承認した。

（2）次年度の同窓会運営に関して：会費の用途について無駄のないように事業計画を立てる必要がある。新入同窓生への歓迎会等の事業をきちんと行う。名簿の調査と管理をさらに充実させる。特に名簿データベースのアップデートと管理を個人情報保護法と対応させて強化させる。総会の開催時期を新年度なるべく早い時期に開催し、同窓会リユニオンと分ける。ホームページに同窓会と工学部のニュースを掲載する体制を確立することを検討する。

その後、講演会を開催した
藤井 透（工学部 教授） 「工業材料とし

ての竹に関する研究」

その後、懇親会を行い、参加者の交流の場を持つことが出来た。

第 19 回工学部同窓会リユニオンの報告

また工学部リユニオンを 11 月 5 日（今出川キャンパス・「同志社大学ホームカミングデー 2006」と共催）で開催し、年に 2 回 会員の集まる機会を設けました。その機会に 新しい試みとして講演会を企画し 今年は

③ 富居 富（工学部 教授） 「スポーツ科学の現状」

④ 国友繁明（国友銃砲 社長） 「日本の花火と世界の花火」

の講演をお願いして 工学部の同窓会らしい交流の場を持つことが出来ました。

2007 年度工学部総会と第 20 回工学部同窓会リユニオンのご案内

今年度は 2007 年 4 月 29 日（日）京田辺キャンパスの正門近くの文化情報学部の研究室のある夢告館教室にて開催いたします。5 月のゴールデンウィーク前に開かれる総会は会員の縦の交流としてゼミの同窓会を考えた 2 次会をご計画くだされば幸いです。参加申し込みは裏表紙参照。

秋の、2007 年の第 20 回工学部同窓会リユニオンにおきましても、11 月 4 日（日）今出川キャンパスにて昨年と同様大学のホームカミングデーにあわせて開催致します。11 月のリユニオンは会員の横の交流として学年の 5 N 周年同窓会を 2 次会として企画くださるよう期待致しております。今年の 5N 周年は S27、32、37、42、47、52、57、62、H4、9、14 年卒業の皆様です。ホームカミングデーでは、興味ある企画が計画されます。ご参加の皆様には大学が記念品も用意いたしております。

卒業生の皆様がキャンパスに集い、ゼミの同窓生会員とまたクラスメートとの再会と出会いの中でいっそう母校とのきずなを深めていただきたいと願っております。

京田辺キャンパス・工学部近況

工学部改組再編により理工学部へ

2008年度から工学部再編として理工学部と名称を変更し、新学科として入学定員40名の数理システム学科が設置される予定である。詳しい情報は大学のホームページを参照ください。

生命医科学部開設へ

新島の念願、結実

創立者新島は、「人間を救うには霊肉両面よりすることが必要である」と考えており、新島にとって、国民の健康・幸福に大きく貢献する医療にかかわる教育は終生の念願であった。そして130年を経て同志社大学は、2003年度の京都府立医科大学との学術交流に関する包括協定の締結を皮切りに、数々の医療・健康に関わる研究センターや寄付教育研究プロジェクトを立ち上げ、2004年度、工学部に人間環境科学、運動機能・生理学などの教育課程を持つ環境システム学科を設置するなど、生命科学・医学・健康分野への関わりを深めてきた。これらの学術研究の成果・実績をもとに、2008年4月、積年の課題であった医療・健康に関わる教育・研究を専門とする「生命医科学部」を京田辺キャンパスに新たに開設することになった。

生命医科学部は医工学科、医情報学科、医生命システム学科の3学科体制

生命医科学部は工学部の広範な工学研究の実績を基盤に、医学、基礎生物学、倫理学など多様な学問との融合的教育研究を行う。医療、福祉、健康など「生命」のフィールドで、創意をもって問題解決へと導く専門的かつ幅広い知識を備えたバイオメディカルエンジニア、医生命科学者の育成を目指す。

医工学科、医情報学科、医生命システム学科の3学科体制で入学定員は、医工学科と医情報学科が90名、医生命システム学科が60名である。

医工学科は、機械工学と医学の融合領域の教育研究を行う。再生組織材料、生体・環境適合材料、医用ロボット、医療・福祉機器などの研究・開発を推進する。予想される就職先としては、企業・研究機関の研究・開発職、自動車メーカー、機械・電気機器メーカー、医療機器メーカー、福祉介護

機器メーカー、製薬企業などである。

医情報学科は、情報・電子工学と医学の融合領域の教育研究を行う。脳内情報処理の解明、電子技術を駆使した生体情報計測、医用機器開発を柱として、研究・開発を推進する。予想される就職先としては、企業・研究機関の研究・開発職、電気・電子機器メーカー、情報通信関連機器メーカー、医療機器メーカー、製薬企業などである。

医生命システム学科は、「生命システムとしてのヒト」について教育研究を行う。解剖学、生理学、分子生物学、免疫学、病理学など幅広い領域を研究し、本来ヒトが持つ適応機能を最大限に引き出す方法や技術の研究開発を推進する。

予想される就職先としては、企業・研究機関の研究職、大学教員、独立行政法人の研究員、医療機器メーカー、製薬関連企業、食品関連企業、化粧品関連企業、マスコミ関係、サイエンスインタープリターなどである。

なお、大学院生命医科学研究科も2008年度同時に開設する予定である。 横川 隆一

D-egg オープニングセレモニー

同志社大学を中心とする地域資源を活用した新産業の創出、産業の発展を目指して、独立行政法人中小企業基盤整備機構（経済産業省主管、以下「中小機構」）が、同志社大学の京田辺キャンパスにおいて、京都府、京田辺市及び同志社大学と連携してインキュベーション施設（写真）を開設しました。2007年3月7日 D-egg オープニングセレモニーが開かれ、入居企業、支援機関、関係機関、運営機関があつまり、D-egg のオープンを祝う式典を開催された。

詳しくは <http://www.d-egg.jp/>



京田辺キャンパス・工学部近況・同窓会名簿

ひらめき☆ときめきサイエンス

独立行政法人日本学術振興会の「ひらめき☆ときめきサイエンスーようこそ大学の研究室へー KAKENHI」は科学研究費補助金(KAKENHI)による研究成果を、中学生や高校生の皆さんにわかりやすく発信する事業であり、大学でおこなわれている最先端の研究成果の一端に触れる機会を提供することで、中・高校生の皆さんの知的好奇心を刺激し、知的創造性を育むことを目指しています。2006年度同志社大学ではこのひらめき☆ときめきサイエンス事業に3つのプロジェクトが採択されました。10月7日(土)担当者:工学部 教授 藤井 透 他「竹は賢いエコ材料:竹からできる繊維、先端ナノ複合材料」、11月4日(土)担当者:文化情報学部 教授 村上征勝 他「コンピュータで明かす「源氏物語」や「浮世絵」の世界ー文化を科学してみようー」、12月9日(土)担当者:工学部 教授 佐々木 和可緒 他「測る、見つける、伝えるレーザー光」(写真)を実施した。



実習風景

界面現象研究センター

異種物質界面や物質表面で見られる界面現象は、あらゆる新機能材料研究に共通するものであり、その界面現象の解明が機能材料研究にとって重要であるとの視点から界面現象を利用した材料創製に関する学際的・総合的研究を行う目的で2006年4月1日開設いたしました。10月14日(土)夢告館に於いて開設記念講演会を実施し

ました。森康維センター長の挨拶、八田英二大学長の挨拶(写真)に始まり、京都大学 国際融合創造センター落合庄治郎教授、物質・材料研究機構青野正和博士、物質・材料研究機構青野正和博士、Case Western Reserve University, Hatsu Ishida 教授の講演があった。



森康維センター長挨拶

2007年版工学部同窓会CD名簿発行

前回の「同志社工学会名簿・同志社大学工学部同窓会名簿」が2003年度に発行されて4年になり、このたび2007年版の発行の運びになりました。従来の同窓会名簿は冊子形式で発行していましたが、個人情報保護の観点から、情報保護機能を有するCD形式にて発行することとなりました。名簿データの暗号化、名簿閲覧ソフトインストール PCの限定と共に、パスワード保護機能を有し、工学会会員(在校生)および同窓会会員に参照が限定されております。さらに、CDの複製・画面上からの文字データ取り込みが不可能で、印刷行数の制限を設け、印刷者名も共に出力されます。なお、確実な情報保護を期すため、現在、名簿閲覧ソフトインストール時にはインターネット接続が条件で、閲覧ソフトはWindows系OSのみに対応いたしております。名簿の冊子形式から電子化への変更により、検索機能が追加されるなど、卒業生の皆様により有効な情報を提供できると考えております。ご希望の方は、ご予約をお願いします。予約された方への頒布価格を3千円と決めさせて頂きました。

同志社大学ホームページアドレス <http://www.doshisha.ac.jp/>

工学部同窓会ホームページアドレス <http://dokonet.doshisha.ac.jp/>

2007 年度工学部同窓会総会

日時:2007 年 4 月 29 日(日)

場所:京田辺キャンパス

<http://dokonet.doshisha.ac.jp/>

参加申し込み方法

2007 年 4 月 23 日(月)正午までに

電子メール dkk@mail.doshisha.ac.jp

もしくは fax 0774-65-6850

に卒業年度とお名前をお知らせください。

会員サービスといたしまして、皆様のゼミ同窓会やクラス同窓会は同窓会ホームページへの掲載と案内状送付用宛名ラベル印刷など、事務局でお世話させていただきます。同窓会のお世話はそれぞれのゼミやクラスで委員をお選びになりご計画くださるようお願い申し上げます。

同志社大学 京田辺キャンパス

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3

工学部・工学研究科事務室 Tel:0774-65-6200 Fax:0774-65-6800

理工学研究所事務室 Tel:0774-65-6220 Fax:0774-65-6804

同志社大学工学部同窓会へのご質問、ご意見あるいは
本冊子「DoKoネット」へのご投稿をお待ちしております。
同窓会事務局あてご自由に連絡、投稿下さい。

2007 年 3 月 22 日発行

同志社大学工学部同窓会

発行者:岡 正太郎

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学工学部内

工学部同窓会事務局 Tel:0774-65-6219 Fax:0774-65-6850

印刷:(有)木村桂文社 Tel:075-381-9784 Fax:075-381-1510